



尾張守居蓮

特別
千 13
3855



尾張芝居雀



尾張芝居雀



門 子 13
號 3855
卷

玉 小 書 讀
古 歌

おしほりこま年色替し早うけ
身の上さかみ深き物も げんか
ちふふ 物の色見さし 具持の身や 子の身
しや馬刀具さすさうさう ぶら ぶら ぶら ぶら ぶら ぶら
遊行辨のりけ清がゆ ぬれぬれ ぬれぬれ
知れぬれぬれぬれぬれ ぬれぬれ ぬれぬれ



細目自來不也談
傳彼石在原系圖

鐘をひき夢の教範

五月十日二の替り

酒の春夜女家住

五月八日

宿無團七時剛斜

同廿一日

狂言の山姥
狂言の山姥

狂言の山姥の狂言の山姥の狂言の山姥

法役者尾と舟とゆとまの若流の舟と上と
懐世の山姥

○文政元戌の酉年七月廿四日大須芝居あり
いす役者尾上菊五郎 山姥 山姥 山姥 山姥
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

時大八海山殿 天竺徳多 韓漸 水申 早替り

理 花の尾 今掛色の三番目

誰人の梅やとや

之於人、云々、
孰も、
菊

見廻り連中より、
画、
身、

二の替り、

御攝、
心、
大和、
暗、

○同、
身、

夜、
飲、
若、
色、

行、
相、

我、
我、
我、
我、

二の替り

七、一、め任言

勢相撲番組

二の勢り十月十九日

鬼一法眼三夏巻

見事奉送廻つたの花子

東鑑官錦西

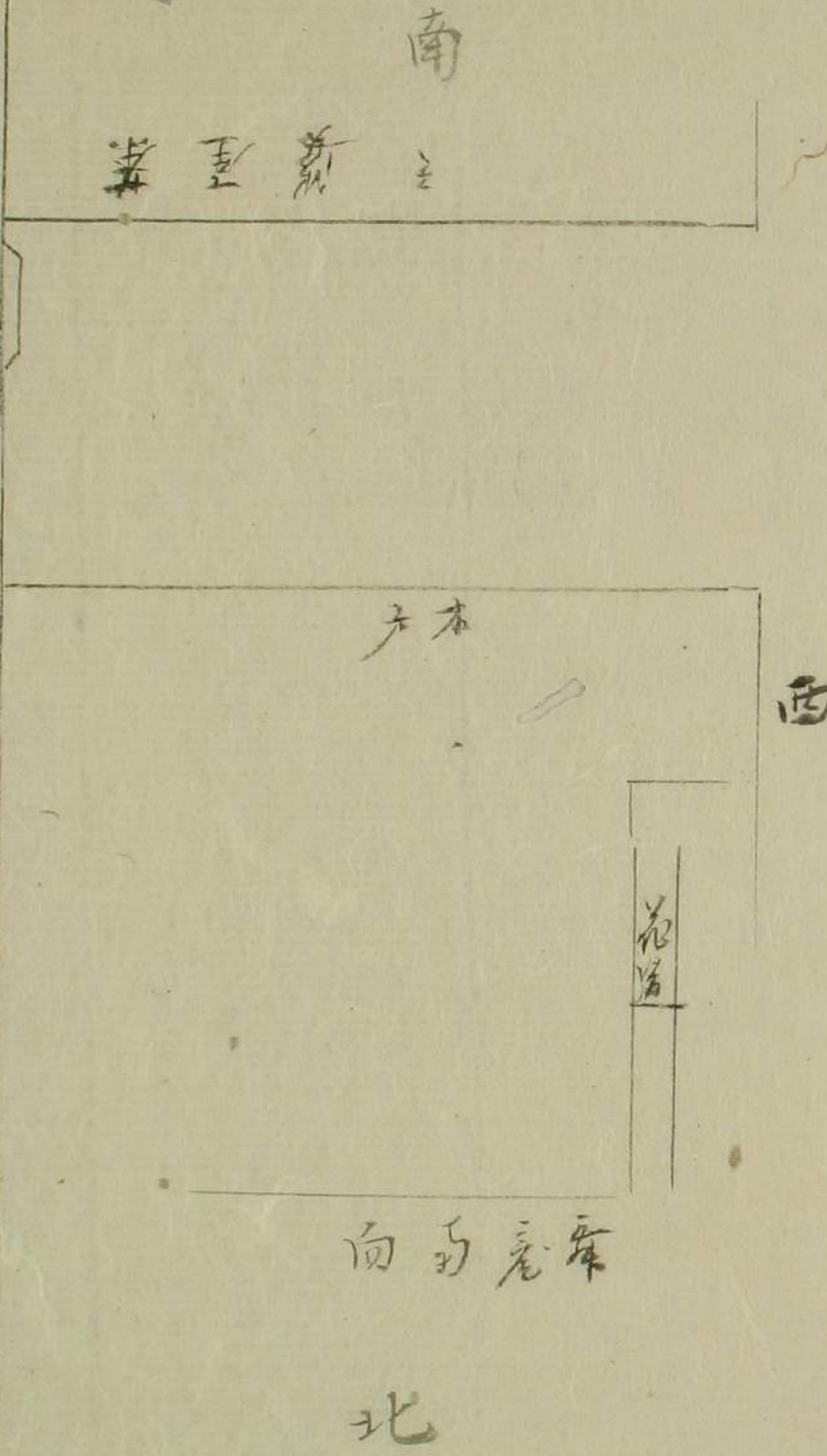
三の勢り二月十九日

菅原傳授手習鑑

藏合襷襦錦

道行 對の花子

芝草心屋



芝草心屋

大木

東

白馬鹿

一、或百あるを八季の一日にせん人々を今も
 疎く大買切りなきを致す法にせしむ我々人
 も知く之れおあるのそと出せしむるを致す
 ありしや、サア流やとさうありんか、大さあ、
 ありしや、時別も、是、速、本、の、亦、も、一、つ、つ、
 こと、の、さ、う、な、り、な、り、な、り、な、り、
 し、な、り、な、り、な、り、な、り、な、り、
 信、濃、を、經、つ、と、之、れ、亦、り、な、り、な、り、
 古、さ、う、な、り、な、り、な、り、な、り、
 浮、割、り、な、り、な、り、な、り、な、り、
 江、合、も、な、り、な、り、な、り、な、り、
 何、れ、能、く、な、り、な、り、な、り、な、り、

所相親攝松島風浪割腰篋 申昇松島物相親

松永花首真破路
 其性昔悪江左深
 新刺候房舞世語集
 勘手白の花日西雲

五月
 松島 時今枯梗親
 六月 時今枯梗親
 六月 時今枯梗親

三人形會衆集合
沃村厚く物相親
 江戸料理帳隨長左衛
 猿曳門出亂
 天駕色相肩

○同羊七月老
橋所立其與行

夜

彼尾勇以師

夜

彼尾勇以師

夜

彼尾勇以師

夜

彼尾勇以師

夜

彼尾勇以師

夜

彼尾勇以師

夜

彼尾勇以師

夜

彼尾勇以師

一谷嫩軍記

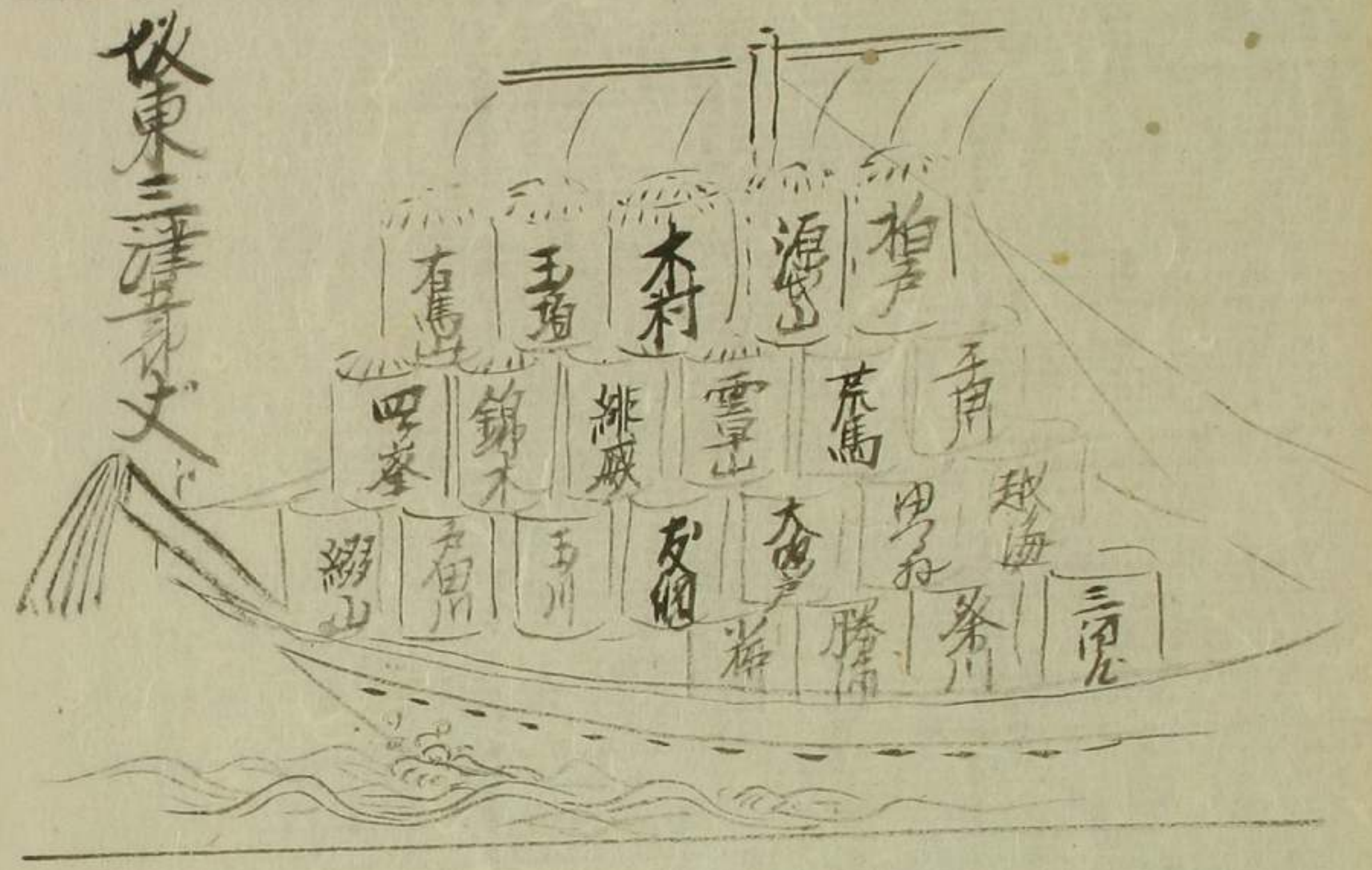
八月十四日
賊起於天の朝馬
江戸花江校線繪

九月十日
倭名屋本忠臣屋藏

九月十日
阿比春雄小松
阿比春雄小松

十月十日
美我如屋本本橋
美我如屋本本橋

十月二日
大宮院助下十日大前分自發行
六月
見物
右勢



東三津舟文

角力石方送りし
引幕し
海をゆく舟
名石あり酒の銘上
是よりし録白紙

○文政五年壬子二月十三日 柳所廿五

有馬 玉箱 木村 源 角
 四喜 錦木 排成 雲山 藤 越海
 湖山 五角 五川 石 金 三原
 大和 右衛門 花王 都
 於海 又 招 色 讀 販

表揚着故ハ半田郡似敷の七役文川景國
筆ノミク白屋名ヲ抄集由路ノミク

○文政八年乙酉八月十日揚所ヲ至キ且具行在門銘
計名宜知之の語 汗園にあり 抄集ノミク始リ

川内ノ沈シク即チ其ノ考ニ及リキ
中村者西ノ
カキテマケル

川内ノ沈シク即チ其ノ考ニ及リキ
中村者西ノ
カキテマケル

又假名者ノミク忠告ノミク由良女中村ナリ

又假名者ノミク忠告ノミク由良女中村ナリ

揚着故ハ半田郡似敷の七役文川景國

筆ノミク白屋名ヲ抄集由路ノミク

○文政八年乙酉八月十日揚所ヲ至キ且具行在門銘

計名宜知之の語 汗園にあり 抄集ノミク始リ

川内ノ沈シク即チ其ノ考ニ及リキ
中村者西ノ
カキテマケル

又假名者ノミク忠告ノミク由良女中村ナリ

不の世を妻國のわがくハ訪人の芝敷の作のやあるか

稲垣屋長秋

あつた山をいし語をうらむの的も好しとあるは

一陽外巻礼

つきた成とつたはるをそ古是之とてあはるる金文七

月園茶丸

見おの山をいし語をうらむの的も好しとあるは

維新の志

ふと名く所代西のわき文連の如き書夏の日を感

子第のそ後古

日おの成をいし語をうらむの的も好しとあるは

二酔のそ佳而ま

定改の成をいし語をうらむの的も好しとあるは

菅橋の妻の者

かあはれをいし語をうらむの的も好しとあるは

よの登り可

物をつらむのそをいし語をうらむの的も好しとあるは

いぢりし語をいし語をうらむの的も好しとあるは

月也の屋

度故の成をいし語をうらむの的も好しとあるは

襟園の秋

荒のそ子第のそをいし語をうらむの的も好しとあるは

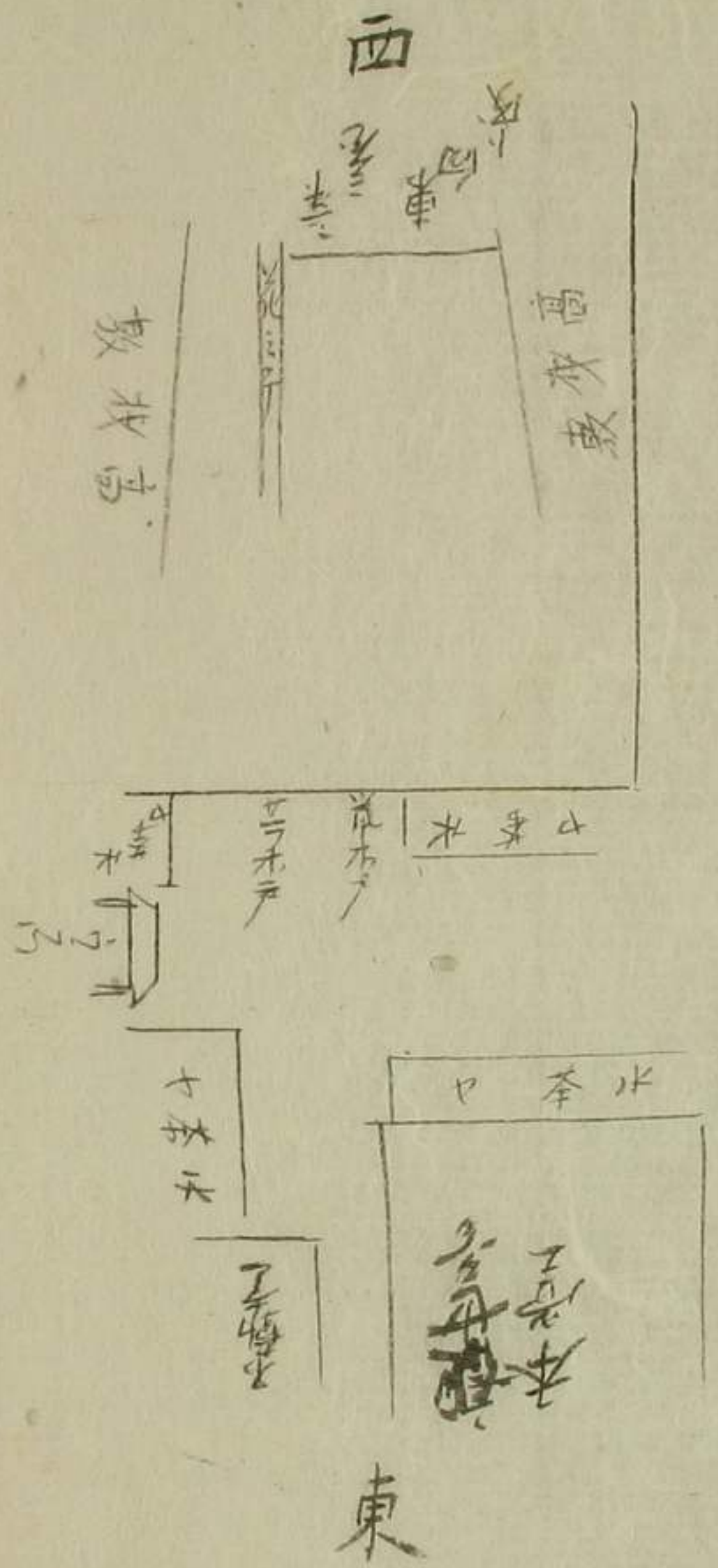
○天保五年甲午二月十五日
再小屋出集
 六年角下
 大直新小屋
去巳
 冬年

鎮城雅鬼洲

二外道狂言
 無行

此及の中

中
 中
 中
 中
 中



○天保六乙未年四月八日

領城筑紫原殿
 土大カ

中
 中
 中

一
 一
 一

後者

瑞寛大心神

瑞寛大心人

と
 而

追狂言替りしつゆり果てて詠ふ

○天保七丙申年三月廿五日の梅所芝居

梅花北國英

つばき茶相看

神村唐橋

神村唐橋

神村唐橋

神村唐橋

神村唐橋

大い評判よりりて又
たつ四月初より三月
あそびし時方か
し位なり

右狂言四月廿一日より休當八月十日まで村名
件は四舞高丸より由り村名出のりり後も太
あそびし由りたもあそびし

比叟世延居あそび新新居りや大和屋

此の世延居あそび新新居りや大和屋
此の世延居あそび新新居りや大和屋
此の世延居あそび新新居りや大和屋

目の本は伊豆山よりしりて
此の世延居あそび新新居りや大和屋
此の世延居あそび新新居りや大和屋
此の世延居あそび新新居りや大和屋

此をきくは... 鳥... 文...

ちう法... 文... 世... 文...

三... 年... 迄... 若... 夫... 糸... 糸... 糸...

... 雲... 雲... 雲... 雲... 雲... 雲...

... 若... 若... 若... 若... 若... 若...

... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

追々狂言替り 身行たれ... 日...

○天保八丁酉年六月廿五日... 人... 若... 若...

弓張月夜野聞書 市川市...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓... 弓...

七月十七日 後
栗山 大丸

つらつら海にのぼる海軍の志
何れ業多の猿族の之癖
徳谷の如きもさきする山頭角又
あふき海軍の志もあふ

石の猿

八月 瀬戸
一谷 嬾 軍記
山 訛 轉 多 猿

八月十四日 大風雨... 三月... 小丸

八月... 猿
猿 表 忠 臣 蔵

表名者 板男 家

小 猿 様

あつた
あつた
あつた

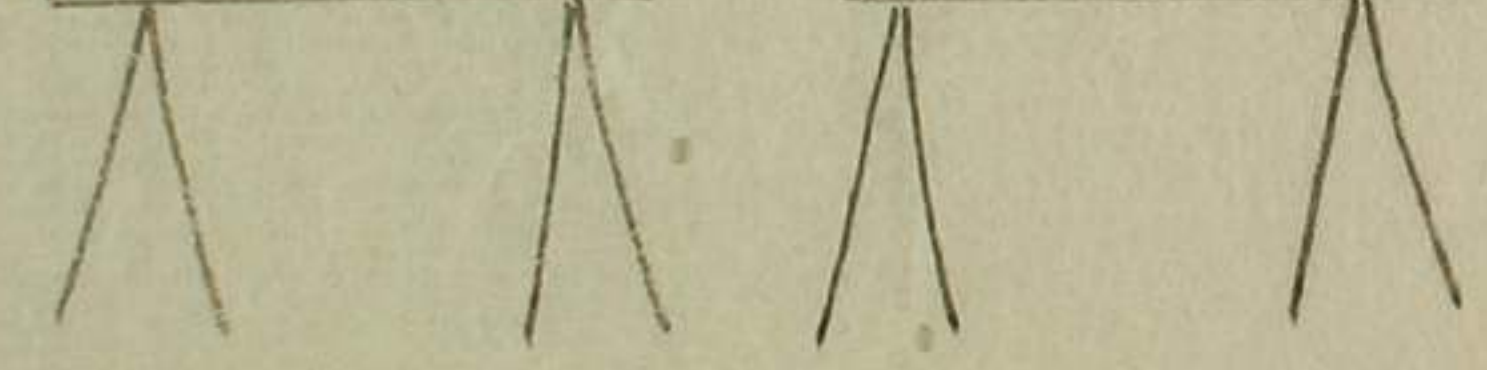
雪 齋 齋 齋

廿二 版 之 書

白 猿
七 役 の
似 似

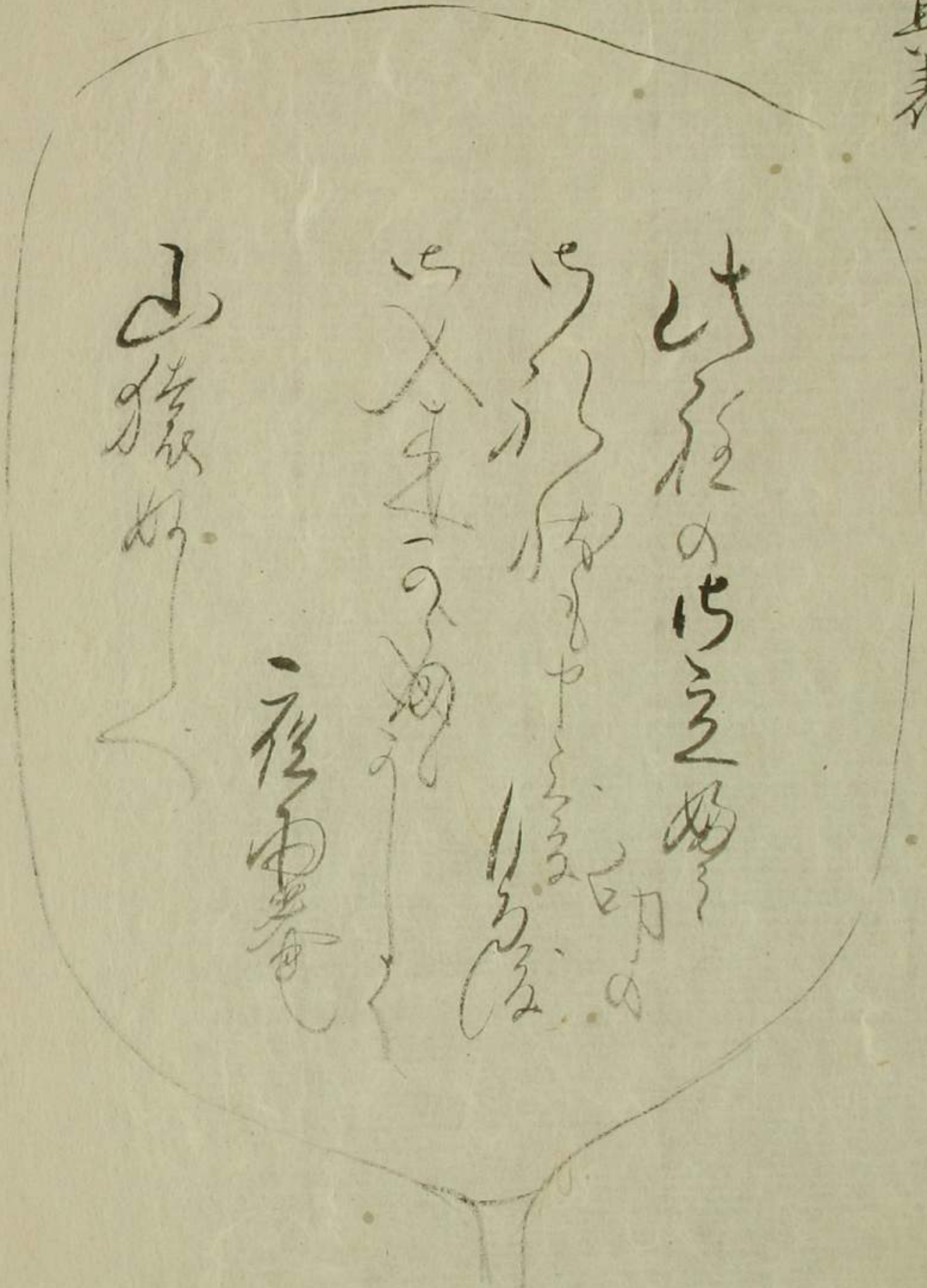
猿 表 忠 臣 蔵
土 版 忠 臣 蔵
幕 田 大 道 真
引 込 小 舟
廿 二 版 齋

猿 表 忠 臣 蔵
柴 七 君 前



七 役 の
柳 井 若 秋 氏
早 舟 氏 前
芥 川 定 次 氏
鏡 若 兵 衛 氏
牛 園 氏 前

三 川 氏 前
大 早 舟 氏 前



けねのけきぬ

うらたけやうま

いんまのうま

二夜申書

山猿如

芝草山家前
海客の自筆の三冊を
あつて
あつて

其の力ある人の松竹

授政とて世の世の氷

たふすの幕のうらたけ

散るる年治りしとて

無言のうらたけ

海客の自筆の三冊

劣落の自筆の三冊

寿海老

娘評判記

巻子仙果

成田屋系圖
比登親惠系

石堂有馬忠俊より市川市太郎判官切腹して
如常親入一後石堂再如常親のえをてりて
信中が書きたる所にお入しとてりて
有常のせし石堂捨後傳の書きたるし
ゆししきん人

○天保九戌戌年二月上り
三摩寺 神氣
一三九

○弘化三丙子年二月廿八日
領裁書湯鍋
鐘鳴今朝傳
仲山魁傳

領裁書湯鍋
鐘鳴今朝傳

仲山魁傳

○此の五本を合し目録を付し
 一巻上より二巻目の迄
 二巻目より三巻目の迄
 三巻目より四巻目の迄
 四巻目より五巻目の迄
 五巻目より六巻目の迄
 六巻目より七巻目の迄
 七巻目より八巻目の迄
 八巻目より九巻目の迄
 九巻目より十巻目の迄

龍屋 龍屋 龍屋
 龍屋 龍屋 龍屋
 龍屋 龍屋 龍屋
 龍屋 龍屋 龍屋

右の五本の東大寺
 上子の名を以て
 追々其行を
 今の名を改
 果人役名の中へ入
 此の五本の東大寺
 上子の名を以て
 追々其行を
 今の名を改
 果人役名の中へ入
 此の五本の東大寺
 上子の名を以て
 追々其行を
 今の名を改
 果人役名の中へ入

○此の五本の東大寺
 上子の名を以て
 追々其行を
 今の名を改
 果人役名の中へ入
 此の五本の東大寺
 上子の名を以て
 追々其行を
 今の名を改
 果人役名の中へ入

竹葉園
 竹葉園
 竹葉園
 竹葉園

龍屋 龍屋 龍屋
 龍屋 龍屋 龍屋
 龍屋 龍屋 龍屋
 龍屋 龍屋 龍屋

大入る自ち評判ありて之食見も
 是れ流天と云ふ評判大入るは其れ
 三書も又教をわらへは毎二と云ふ
 出るこころを評判しあはれ評判
 入るこころを評判しあはれ評判
 ○大入る自ち評判ありて之食見も
 其れ流天と云ふ評判大入るは其れ
 三書も又教をわらへは毎二と云ふ
 出るこころを評判しあはれ評判
 入るこころを評判しあはれ評判
 長範は志をんぶぞと打さけ
 長範は志をんぶぞと打さけ

長範は志をんぶぞと打さけ
 長範は志をんぶぞと打さけ

○文化三年八月の清書院に接洽
 長範は志をんぶぞと打さけ
 長範は志をんぶぞと打さけ

是りしとていふかや
又も信じて居る
二月十五日

青丹子守のまゝに挿しとするを又世尾平史

八月三日今日信居の三夜序より真福寺より挿し柏野

信居世尾平史といふ世おつてこの代八年四月下腹大

なぬれはしりて是くあんとてし頭おはる甲おく勢ハ

十平の子の如く強おの上は九夜をていしを又年相お

馳業大匠をうし種信園常松を世尾平史の之世お

云所あり

九月九日ありて挿し日親上人徳行記を世尾平史又創編を

左史年相おし八業馳業おしりて大匠種信の

世尾平史を世尾平史

江戸幕府の常中おし年相おし種信の

あつてはるしりて上りりて西おしりての音おしりて

是れを字おしりて色彩雲流廻世樂心徳実史

江戸幕府の常中おし年相おし種信の

江戸幕府の常中おし年相おし種信の

江戸幕府の常中おし年相おし種信の

江戸幕府の常中おし年相おし種信の

江戸幕府の常中おし年相おし種信の

江戸幕府の常中おし年相おし種信の

江戸幕府の常中おし年相おし種信の

江戸幕府の常中おし年相おし種信の

石室の記... 以後... 記

古河村... 元文二年... 古河村... 元文二年...

古河村... 元文二年...

一此... 海... 古河村...

古河村... 元文二年... 古河村... 元文二年...

古河村... 元文二年... 古河村... 元文二年...

元文四年... 古河村...

古河村... 元文二年... 古河村... 元文二年...

古河村... 元文二年... 古河村... 元文二年...

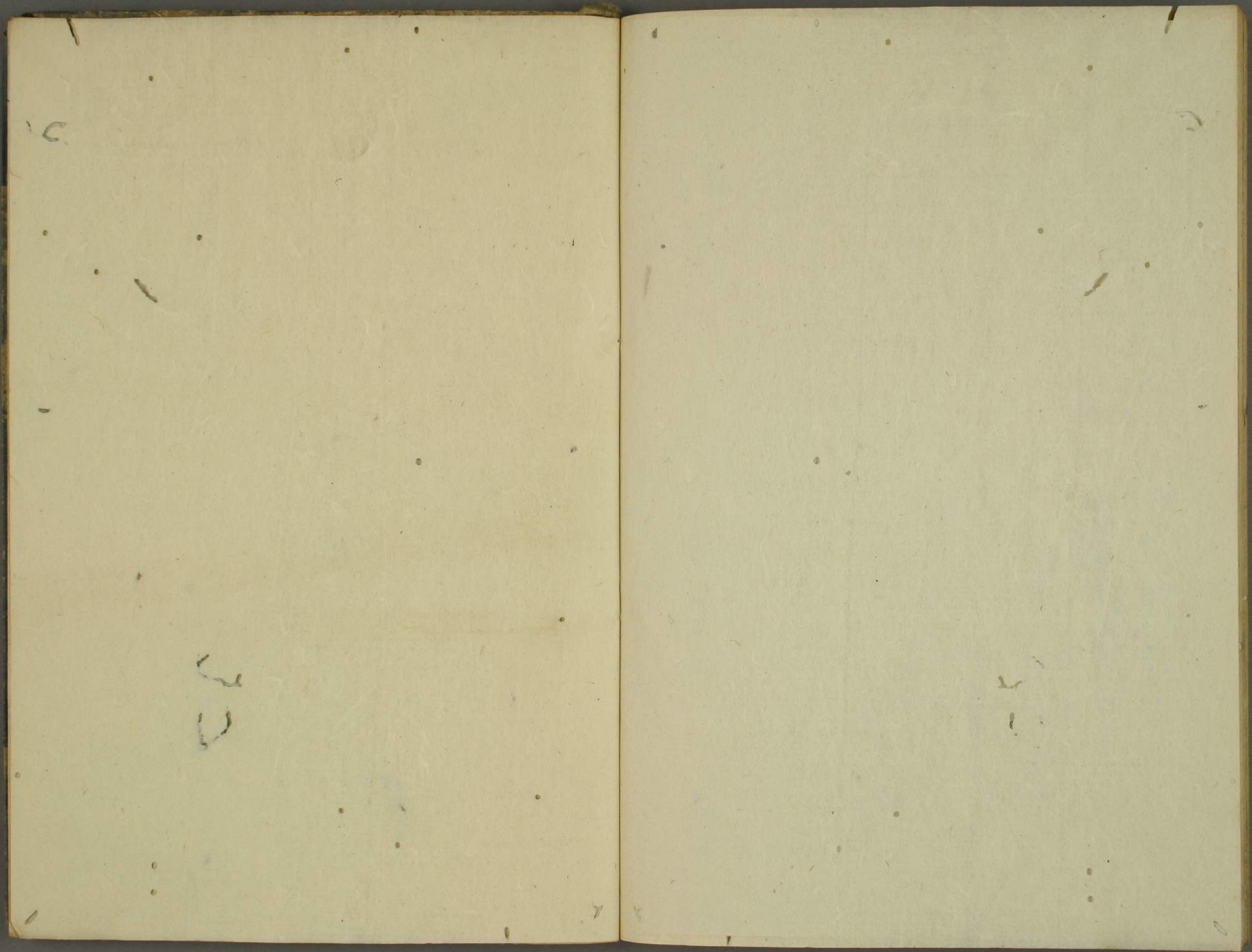
古河村... 元文二年... 古河村... 元文二年...

○此處とあるは...
 格所...
 元文三年六月九日
 右所...
 〆

夕日物鏡 元文三年巳
 改訂の序

寛文五年巳秋...
 村上...
 大場...
 〆

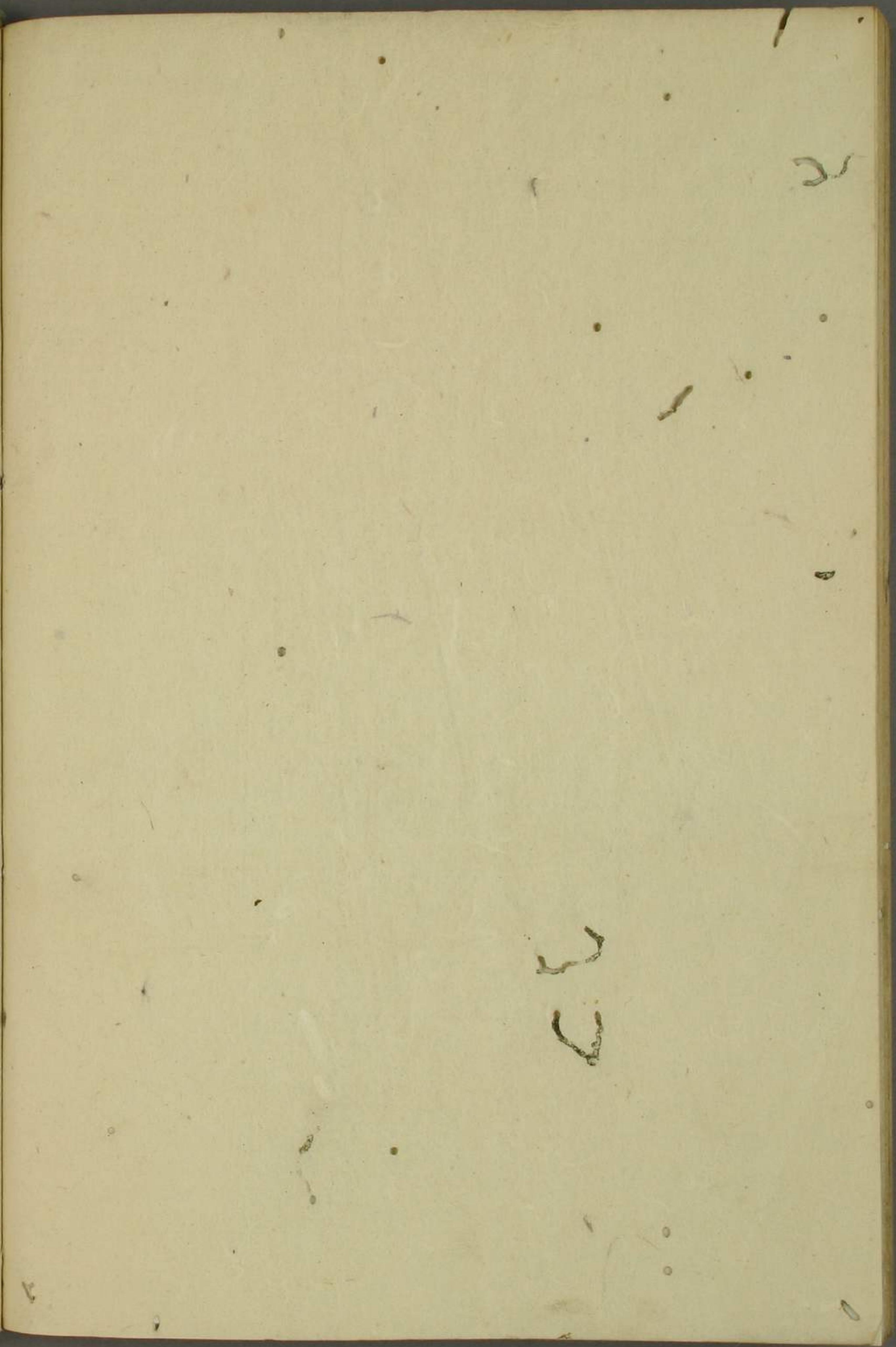
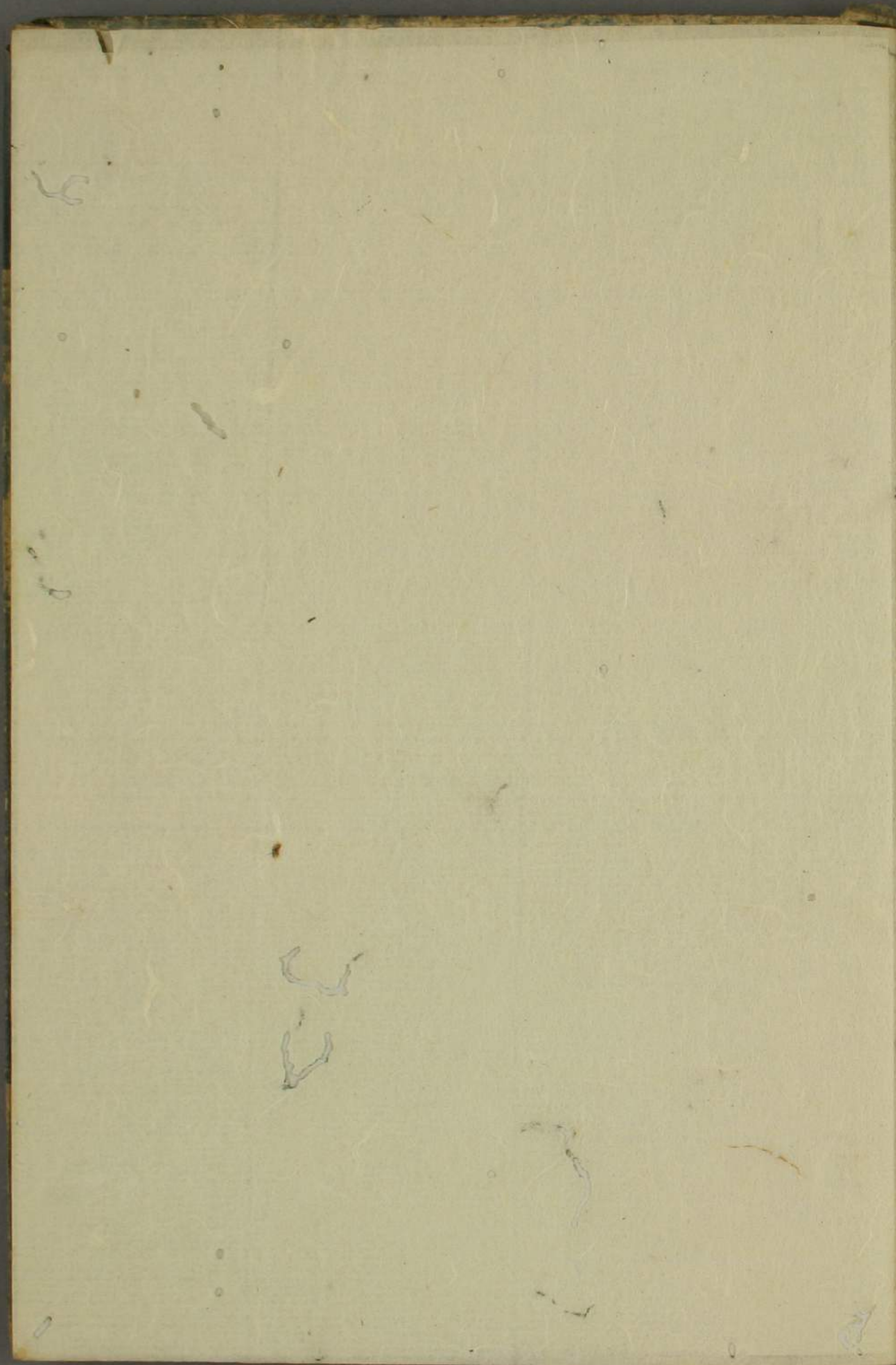
二重の...
 八重...
 〆



10

22

22



○月年四月 〇〇〇〇 楊所 袁 其 中 居 是 之 南 向

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇



